

事務事業評価 & 総合計画実施計画調査シート

事業名	コード	名称	区分	コード	名称
652		数量円滑化推進事業	会計	01	一般会計
			款	06	農林業費
42		持続的で個性的な農林業を实践する	項	01	農業費
			目	04	農業生産対策費
3		農業生産性の向上	細目	101	生産調整推進対策事業
			細々目	01	数量円滑化推進事業
基本計画該当頁		160	行革大綱の重点事項番号		
担当部課	コード	703500	評価者氏名	廣田 稔	連絡先
	名称	大山田支所産業建設課			47 - 1157 (内線)

事業の計画・内容

対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
水稻生産農家 (対象件数)	生産調整面積を達成することができる。
根拠法令・要綱等	
開始年度	平成 年度
終了年度	平成 年度
本年度事業内容	水田農業推進協議会・JA等関係機関と連携し、米の生産調整を円滑に推進した。 委員報酬、事務消耗品、転作確認票印刷製本費及び転作確認用燃料費等
状況変化等	平成19年度から、伊賀市一体化の中で事業の推進

整備内容

1 建設用地	千円
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

運営体制

1 運営主体	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 民間委託等
委託先	人 千円
2 配置(予定)人員	
3 年間運営費	
4 市内の類似施設	

進捗状況	年度	平成17年度 決算内容			平成18年度 決算内容			平成19年度 計画内容			平成20年度 計画内容			平成21年度 計画内容			平成22年度 計画内容		
		事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額
委託 工事	事業内容	報酬		(千円) 124	報酬		(千円) 108	旅費		(千円) 20	旅費		(千円) 20	旅費		(千円) 20	旅費		(千円) 20
		需用費		459	需用費		532	需用費		675	需用費		675	需用費		675	需用費		675
		機械器具借上料		162	役務費		20	役務費		49	役務費		49	役務費		49	役務費		49
進捗率 (%)		事業費計(A)		745	事業費計(A)		660	事業費計(A)		744	事業費計(A)		744	事業費計(A)		744	事業費計(A)		744
事業投入人員		人件費(B)	0.2	人 1,368	人件費(B)	0.2	人 1,224	人件費(B)	0.2	人 1,368	人件費(B)	0.2	人 1,368	人件費(B)	0.2	人 1,368	人件費(B)	0.2	人 1,368
フルコスト (A) + (B)				2,113			1,884			2,112			2,112			2,112			2,112

事業費(人件費除く)の財源内訳

(A) 事業費	745	660	744	274	274	274
Aの財源内訳						
国庫支出金						
県支出金	745	660	744	274	274	274
地方債						
受益者負担						
その他						
一般財源	0	0	0	0	0	0
計	745	660	744	274	274	274
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等	数量調整円滑化推進事業補助金	数量調整円滑化推進事業補助金	新たな需給システム確立推進事業費補助金	新たな需給システム確立推進事業費補助金	新たな需給システム確立推進事業費補助金

事業種別	継続	補助	事業類型	ソフト事業	2次評価対象分
------	----	----	------	-------	---------

事業実績

活動指標	単位	実績値		目標値	
		H17	H18	H19	H20
調整会議	回	目標	2	目標	2
		実績	2	実績	2
		目標		目標	
		実績		実績	
		目標		目標	
		実績		実績	

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
			H17	H18	H19	H20
生産調整達成率	水田ビジョンに基づく達成率(H22を基準)	%	目標	100	目標	100
			実績	104	実績	100
水稻販売達成率	水田ビジョンに基づく達成率(H22を基準)	%	目標	100	目標	100
			実績	99	実績	99

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	平成14年12月の米政策改革大綱により、従来、生産者重視であった農政から消費者重視・市場重視の考え方に転換され、需要に即した米づくりの推進を図ることになった。米の生産調整方法についても従来の「作らない面積」の配分から「作る面積」の配分に転換されたことから、農業者が混乱しないよう、また、需要に即応した米づくりや流通を確立するために必要である。
有効性	4	水田農業ビジョン作成母体である水田農業推進協議会の活動を支援し、生産調整面積を達成することができる。
達成度	4	水田農業ビジョンに基づき目標の米生産量、生産調整面積ともに達成した。
効率性	4	事務の効率化など経費削減。本年度で解散し組織統合する。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	現状維持	平成19年度で旧市町村単位の協議会を解散し、伊賀市で一本化することにより事務の効率化、経費削減を図る。